

2023 年度沖縄国際大学 FD 支援プログラム指定プロジェクト

プロジェクト①

「本学におけるマクロレベル（大学全体）の『教学マネジメント指針』の策定（継続）」

プロジェクト概要

中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会において、教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）指針が示されたことから、本学が自ら掲げる教育目標を達成したかどうかを判断できる客観的かつ具体的な指標と評価・測定方法の策定が不可欠となった。こうした取り組みは、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要なものである。2022 年度のプロジェクトでは、上記指針を参照しつつ、本学の実情に合致したマクロレベル（大学全体）での「教学マネジメント指針」の原案を策定したが、エビデンスや測定方法の実行性・有効性についての課題が残った。そこで、2023 年度の指定プロジェクト①では、昨年度の原案に基づいて、実行性と有効性を主眼に置いたエビデンスや指標の可視化を図り、検証することとした。

プロジェクトの成果について

前年度に作成した原案について、その実効性と有効性という側面から検証を進めてきた結果を、本学のマクロレベルにおける新たな学修・教育成果指標（案）として再整理した。今年度作成した新たな成果指標（案）は、教育成果指標としての性格を強く持つことから、学習者本位の教学マネジメントの実現において両輪を成す学習成果指標を各学部・学科レベル、さらには各学生レベルで意識的に構築し、両者を統合的かつ相互補完の関係性に位置づけることが重要である。このような検討結果は、今年度のプロジェクトによって得られた成果である一方、実際にソースデータを用いて、具体的な数値を提示し、本学における学修・教育成果の見える化（可視化）を実現させることは今後の課題とした。また、今回はマクロレベルの学修・教育成果指標を具現化するための修正にとどまったため、昨年度に続き、ミドルレベル（学部・研究科、ないしは学科・専攻レベル）における学修・教育成果指標の作成についても今後の課題とした。

2023 年度沖縄国際大学 FD 支援プログラム指定プロジェクト

プロジェクト②

「ルーブリックを用いた成績評価に関するモデルの検証」

プロジェクト概要

大学の授業における成績評価は、到達目標と成績評価方法の関連が受講生等に明確に示されることにより、その客観性と公正性が確保され、このことが学修者本位の学びを実現することにつながる。また、同一科目の場合、その科目の到達目標が同じとなることから、成績評価も共通の基準でおこなわれることが求められる。このような、カリキュラムにおける科目の位置づけの体系性を確保し、同一名称科目における到達目標と成績評価基準の共通化においては、ルーブリックの活用が有用である。昨年度の本プロジェクトでは、地域環境政策学科の初年次対象のゼミ科目（基礎演習Ⅰ・Ⅱ）を事例として取り上げ、統一的な到達目標と成績評価基準のモデルとなるルーブリックを作成することができた。そこで今年度は、作成したルーブリックを实际活用することにより、その有効性を検証すると共に、成果と課題を踏まえて、全学的な活用に向けて取り組むこととした。

プロジェクトの成果について

地域環境政策学科内の会議において基礎演習担当の教員に本プロジェクトで作成した「基礎演習の到達目標、測定方法およびルーブリック」について資料説明を行い、当該科目への導入を依頼した結果、前期（基礎演習Ⅰ）においては基礎演習担当教員7名のうち5名が、後期（基礎演習Ⅱ）は6名が、全てあるいは一部の活動にルーブリックを活用したことの報告を得た。活用結果の妥当性に関しては、教員から得たフィードバックから、「授業活動の最初に『ルーブリック』を提示することは学習効果を高めるために重要」、「学生の活動の結果に対して短い時間でも適切な評価を行うことができる」といった評価が得られた。一方、「活動の結果」だけではなく「活動の過程」を重視する演習科目において、全ての活動に「ルーブリック」を設定し、ルーブリックの評価をそのまま成績評価に反映することは適切ではない、という課題も浮き彫りになった。